

## コラム 6 株式会社南信精機製作所

### リスク低減とサプライチェーン最適化の両立に潜む課題

長野県上伊那郡の株式会社南信精機製作所（従業員 243 名、資本金 4,800 万円（2024 年 3 月時点））は、精密プレス、精密プラスチック、インサート・アウトサート成形、さらに相互のメリットを合わせた独自の精密電子部品である「プレスチックス®」を武器に、車載部品や世界トップクラスのシェアを誇るマイクロモーター用整流子など多彩な部品の開発・製造を手がける電子部品メーカーである。

1960 年の設立以来の伝統である開発・設計・量産・品質保証までをトータルに手掛ける社内一貫生産を推進し、品質・納期・コストにおいて顧客からの高い信頼を獲得している。

また、1993 年に中国にて「南信精機（香港）有限公司」を設立し、翌年には広東省にて工場の操業を開始し、さらに 2014 年にはベトナムにて「南信精機ベトナム株式会社」の操業を開始した。世界中に供給する生産体制を構築することで市場を拡大し、顧客のグローバル展開をサポートしている。

コラム第 6-1 図 本社及び日本・中国・ベトナム工場と製品の一部



備考：上段左から順に、日本本社、日本工場の様子、下段左から順に、中国工場、ベトナム工場、工場で生産している製品の一部。  
資料：株式会社南信精機製作所撮影。

取引先の TIER1 や TIER2 の企業が中国進出する際に、日本の生産システムを現地に構築することを望んでいたことが同社の中国進出の動機の一つとなった。顧客要望が起点となった中国進出はその後順調に拡大していき、2008 年頃から ASEAN 向けの仕事も増えてきたことから、更なる優位性を求めて ASEAN 加盟国であるベトナムにも進出を果たした。

しかし、2018 年頃から米中貿易摩擦の影響による関税障壁や新型コロナウイルス感染症の拡大による調達の停止などを受け、調達を中国へ依存することにリスクを感じていたところ、新規の製造部品に関して TIER1 や TIER2 の複数の取引先企業から、中国での製造を避けてほしい旨の要望を受けた。こうした要望を契機にこれまでの生産体制を見直し、TIER1 や TIER2 の取引先企業向

けの製品はベトナム工場及び日本にて製造し、中国工場では中国市場向けの製品を製造することとした。これらの取組により、調達中国への依存が低減し、TIER1 や TIER2 の複数の取引先企業からも、高い評価を得ることができた。

一方で、製品は複数の TIER3 や TIER4 の部品のユニットで構成されており、中国で製造される部品も多い。そのため、中国から製造拠点をシフトした結果として、同社に発生する輸送コストは大きくなっており、現時点ではコストの面などで明確なメリットが生じているわけではないという。

同社の事例からは、リスク低減に向けた取組にはコストの増加などのデメリットが伴い、サプライチェーン最適化に直結しない可能性があるという実態が見受けられる。しかし、リスク低減に向けた取組に当たっては、コスト面などの短期的な影響に加えて、市場動向による長期的な影響など、多様な視点によってそのメリット・デメリットを考慮することが必要であろう。同社の片桐社長は、「新型コロナウイルス感染症の影響で生産がストップするなどといった事態に対して、大手上場企業や売上規模の大きい企業で今後、中国市場からのシフトが発生すると想定されるため、中国への過度な依存を回避したサプライチェーンの構築はこれからと考えられる。」と語った。